



テイク・ナット・ハン年表

テイク・ナット・ハン師の誕生から現在に至るまでの歴史を、
主な出来事をピックアップして年表を作成した。

作成・島田啓介

一九二六	●一〇月二一日ベトナム中部フエ市にて出生。
一九四二	●一六歳トウヒユウ(慈孝)寺で沙弥出家し入門僧となる。法名テイク・ナット・ハン(釈一行)。
一九四六	●第一次インドシナ戦争始まる。「今日の仏教」など数冊を上梓し、平和活動を開始。
一九四九	●三三歳で正式に僧となる
一九五〇	●初めての禅道場を創設。
一九五四	●サイゴンのアン・クワン(印光)寺の創立に共同で着手。一九六一年まで教える。 ●全ベトナム仏教徒協会(AVBA)で、編集、出版、執筆活動に従事。「季節の初めに咲く蓮の花」の編集主幹になる。 ●七月二二日ジュネーブ休戦協定成立。ベトナムの南北分割。
一九五六	●釈迦生誕二五〇〇年の式典への出席のため初来日。
一九五七	●サイゴン近郊の山地に仲間と「フォン・ヴォイ」仏教共同体を建設、活動の拠点とする。
一九五九	●サイゴン大学の女学生フィン(のちのシスター・チャンコン)に出会う。
一九六〇	●弾圧にあい、フォン・ヴォイを追われる。竹林寺に避難し、「十三本の杉」の仲間とともに平和活動を推進する。 ●ベトナム戦争の激化。

一九六一	●プリンストン大学から比較宗教学研究のための招聘を受け入れ渡米。
一九六二	●コロンビア大学で教鞭をとる。
一九六三	●戦況のさらなる悪化。仏教徒の弾圧。六月一日クアン・ドック師による焼身供養の抗議がある。 ●即時停戦を訴え全米を講演。国連への報告。断食の折り。 ●ゴ・ティン・ジエム政権の崩壊。
一九六四	●仏教界からの要請を受け入れ帰国。ベトナム統一仏教教会(UBCV)に「三項目の提案書」を提出。
一九六五	●各地に「自助村」を建設。サイゴンに仏教研究所を創設し、これが発展してヴァン・ハン(万行)仏教大学となる。 ●ラ・ボア出版社を設立し多くの自著を出版。
一九六六	●社会福祉青年学校(SYSS)の活動を開始。ヴァン・ハン仏教大学のプログラムに組み入れられる。
一九六七	●SYSSの六人のメンバーを在家得度し、「ティブ・ヒエン(インタービーイングII相互存在)教団」を設立。 ●十四戒をもうける。 ●四〇歳、トウヒユウ(慈孝)寺で法灯を授けられ、ベトナム臨済正宗竹林派の第四十二世法嗣となる。
一九六八	●ベトナム戦争早期終結を訴えるため再来日。 ●アメリカ友和会(FOR)とコーネル大学の招きで再渡米。各界の著名人と交わり戦争終結のために奔走。 ●ワシントンD.Cにて五項目の平和の提案を行い、それゆえに帰国不可能となる。
一九六八	●キング牧師、テイク・ナット・ハン師をノーベル平和賞に推薦。 ●SYSSの中心的なメンバー、ナット・チャーマイの焼身抗議。
一九六八	●一月三〇日テト攻勢。ベトナム戦争終結の転機となる。
一九六九	●事実上の亡命先となったパリにて、仏教平和使節団、統一仏教教会(UBC)を設立。パリにオフィスを構え、機関紙「蓮」を創刊。
一九七〇	●アルフレッド・ハスラーとともに戦争と、環境破壊、貧困に取り組むダイドウン(大同)運動を開始。アメリカ、ヨーロッパ全土を講演活動で回る。



